

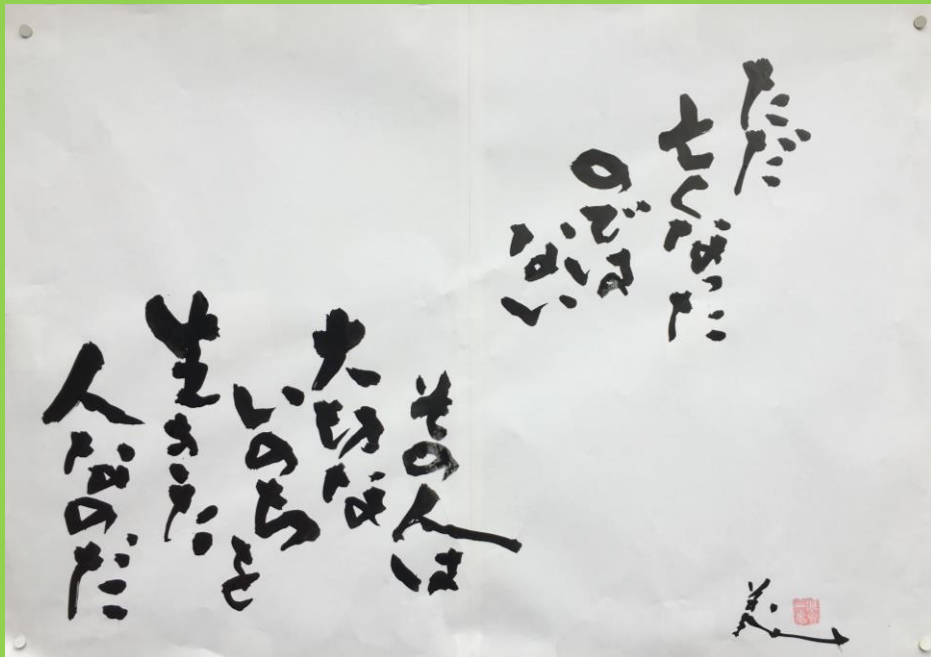


真宗大谷派 存明寺通信

No.190

2019年(仏歴2550年)5月3日発行

5月のお寺の掲示板



佐野明弘(真宗大谷派僧侶)

ただ亡くなったのではない
その人は大切ないのちを
生きた人なのだ

(佐野 明弘)

人は、亡くなったその人を憶い起こす時、何歳でどのような病気で亡くなっていたのかということに気が向いてしまう。たとえば私の父は68歳、末期の癌でこの世を去っていった。

しかしどのようにして「死んだ」のかという、そのことだけでその人の一生を語ることは、当然のことながら、できない。ただ亡くなったのではないからだ。その人は大切ないのちを生きた人だったのだ。

「生きた」ということでその人を見つめてみる。その人は、赤ちゃんとしてこの世に誕生し、成長し、思春期を過ぎ、成人となった。そして、誰かに愛され、誰かを愛し、何かを遺していったのだ。

その人は、喜びや楽しみ、時には苦しみや悲しみを感じながらも、道を求めてこの世を生きた人なのである。

ただ亡くなったのではない。大切ないのちを生きた人として、その人と出遇い直していくことを、大切にしたい。



永代経法要に寄せて
住職・酒井義一

蜜のしずく

存明寺住職 酒井義一

【仏典童話 蜜のしずく】

カーラという名前の旅人がいました。どこまでも続く広しい野原を歩いていました。すると、どこからともなく地鳴りが聞こえてきました。あたりを見回してみると、むこうからたくさんのゾウの群れがカーラの方に走ってきます。周りには身をかくすところがありません。その時、ツルが垂れている古井戸を見つめました。カーラはツルにつかまりながら井戸の中に身をかくしました。

井戸の下を見ると、そこにはキラキラと光るふたつのものがありました。「しめた、あれは宝石だ。なんてオレは知っているんだ」。カーラはそう思いました。しかし、それは宝石ではありませんでした。なんと大きな口をあけてこちらを

にらんでいる、おそろしい龍だったのです。あわててよじ登ろうと上を見ると、白と黒の二匹のネズミがかわるがわるツルをかじっています。さらにそのネズミをねらつて四匹のヘビが井戸のふちにいるではありませんか。カーラはヘビが死ぬほど苦手です。このままでは確実にツルは切れて、龍に食べられてしまいます。カーラは思いました。「なんてオレはついていないんだ」と。

ぼとり。何かがカーラの口に落ちてきました。井戸のふちにはミツバチの巣があり、カーラがおりた時に傷付いた巣から甘い蜜が落ちてきたのです。なんとも言えない蜜の甘さ。カーラは自分が置かれている現実を忘れて、こうつぶやきました。「ああ、最高だ。なんてオレはついていているんだ」。

仏典童話『蜜のしずく』さて皆さん、カーラとはいったい誰のことでしょうか。



【お話の解説】

広い野原とは私たちの迷いの世を喻えています。ゾウは何が起こるかわからないこの世の無常を、井戸は人生、ツルはいのち。白と黒のネズミは昼と夜、つまり時の流れをあらわしています。私のいのちは確実に終わりへと近づいているのです。井戸の周りの四匹のヘビは、地・水・火・風の四大を、蜜は私たちの欲を満たすものの象徴です。蜜は私たちの欲に応じていろいろなものに変化します。たとえば：食べ物・飲み物・お金・宝石・車・財産・名声などなど。そして、龍は死を喻えています。

自分が置かれている現実を忘れて、甘い蜜に心奪われて夢中になっている、そんなことを繰り返してはいませんか。このお話は、現実の問題ときちんと向き合いながら、道を求めて生きていくことの大切さを私たちに教えています。現実の人生を引き受けて、堂々と歩んでいくことのできる教えが、浄土真宗の教えなのです。

なおこのお話は、『仏説譬喻經』というお経に説かれている、お釈迦様のお説教です。



私を照らすひかりの言葉

- 人は、人によって 傷つき 人によって 癒される
- 思い込みが 道を閉ざす
- 子供きらうな 老人きらうな 来た道じゃ 行く道じゃ

住職日記

▼新企画 おそうじの日

春のお彼岸法要の直前、新企画「おそうじの日」が行われ、約20名の方々が参加。参道や墓地のそうじ、植木の剪定などをしていただいた。今後も春秋のお彼岸前に行う予定。次回は9月19日（木）午後1時～4時に行われる。ぜひご協力ください。

▼新企画 無量寿廟法要

同じく新企画「無量寿廟法要」が春のお彼岸中に行われた。無量寿廟とは存明寺にある永代供養墓（納骨堂）のこと。すでに多くの方々がここに納まっている。10時より3名の僧侶や世話人の読経により始まり、参列者が焼香。その後、住職より無量寿廟前法話があった。参列者は本堂で行なわれたお彼岸法要にも参詣。今後も春秋のお彼岸法要時に行う予定。次回は**9月23日（月）**10時過ぎ。どうぞご参詣ください。

▼春のお彼岸法要

3月21日の午前と午後の2回にわたり行われた。住職のお話は、右ページの「蜜のしずく」だった。手話を必要とされる方が毎回ご参詣くださり、そのことを受けてご門徒の有志による手話通訳が行われている。手話通訳のある法要、それが存明寺の年間行事の当たり前の風景になりつつある。

感話御礼

藤井俊五さん（存明寺総代）
山口明雄さん（存明寺世話人）
三好浩一さん（存明寺世話人）

▼しんらん交流ひろば★樹心の会

毎月一回、「親鸞聖人に人生を学ぶ」をテーマに開催中。勤行・お話のあと、4班に分かれて班別の語り合い、その後に関話タイム。一人ひとりの居場所になることを目指している。

お話の要旨

熊崎さん…いつか信じる心をポツと発させてもらえたらいいな。
堀之内さん…人間関係についての悩み、それが今まで気づけなかつ

たことに気づく縁に。
酒井住職…覚るといつても、迷っていることを覚るのだ。

▼ぞんみようじこども会

今年のごども会が4月にスタートした。新一年生が2人入会。おそらく人生で初めて読む正信偈、身体全体でリズムを取りながら唱和していた。途中で疲れて休んだりして。その姿が新鮮。おやつ争奪ビンゴゲームで盛り上がった。

▼ぞんみようじこども食堂

毎回大勢の方々がこども食堂に集まってくる。キーマカレーを食べ、しゃべって、遊んで、まどろみで。言葉もしゃべれなかった子どもたちが、やんちゃに育ち、住職にたたかいを挑んでくる。相手は疲れを知らない子どもたち。こちらは疲れた初老のおっさん。体力と気力が、ほしいな。



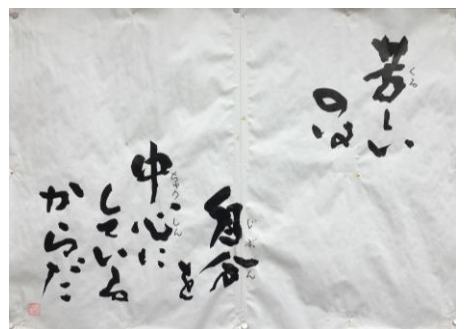
存明寺一本桜、今年もライトアップ！



新企画・おそうじの日、お茶の時間。



お寺の掲示板 2019年4月の言葉。



お寺のひろば 2019

5月18日(土) 14時 樹心の会

お話：佐藤尚宏さん・酒井義一住職

6月8日(土) 14時 樹心の会

お話：渡辺一真さん・酒井義一住職

6月22日(土) 14時 グリーフケアのつどい

大切な方を亡くした人のつどい

7月6日(土) 11時 新盆法要

※対象者には別途ご案内いたします。

7月13日(土) 11時と13時 お盆法要

8月31日(土) 午後 青年のつどい

仏教に触れるひととき&境内バーベキュー

9月7日(土) 14時 樹心の会

9月19日(木) 13時 新 おそうじの日

9月23日(月) 11時と13時 秋のお彼岸法要

9月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい

10月5日(土) 14時 日帰り旅行会

行先：深大寺・神代植物公園・水神苑

10月12日(土) 14時 樹心の会

10月26日(土) 10時 おみがきのつどい

11月2日(土) 14時 報恩講のゆうべ

3日(日) 12時 報恩講法要

お話：金石潤導さん(北海道教区)

11月9日(土) 14時 樹心の会

12月14日(土) 14時 樹心の会

12月21日(土) 14時 グリーフケアのつどい

◎ぞんみようじこども会 月一回

◎ぞんみようじこども食堂 月一回

◎子育てサロンいちごのへや 月一回

おぼん法要

7月13日(土)

11時 午前の部(法要とお話)

13時 午後の部(法要とお話)

※午前と午後の2回実施。

入場無料

場所 存明寺本堂にて

内容 正信偈の唱和・お話

お話 酒井義一住職とご門徒有志

※一回40分程度のご法要です。

※ご自由にご参詣ください。



存明寺のシンボルツリー・イチヨウの木の枝おろしをしました。世田谷区の保存樹木です。(4月24日～26日の3日間撮影)

【あとがき】



▼存明寺には世田谷区の保存樹木があります。本堂前の二本のイチヨウ。本堂裏の二本のケヤキと一本のソメイヨシノ。墓地の三本のアカマツ。合計で八本。この木々たちは世田谷区が「保存樹木」に指定した木々です。勝手に伐採をしないことを条件に、区が無償で枝おろしなどの手入れをしてくれます。有難いことです。

▼玄関前のイチヨウが、三年ぶりの枝おろしによってさっぱりとしました。その前後の写真が左上のもの。存明寺のシンボルツリーであるイチヨウ、よそおいも新たに、存明寺に訪れる人々を無条件に向かい入れてくれます。あらためてそのような姿勢を見習い、私たちの姿勢にしていきたいものです。：と、ということで、皆さま、存明寺へ、ようこそです。(住職)

東京都世田谷区北烏山4-15-1
 真宗大谷派 存明寺
 住職 酒井義一(釋諦信)
 〒157-0061 TEL 03-3300-5057
 FAX 03-3300-5880
 E-mail : sakai@zomyoji.jp

